

鹿ノ台川柳教室 十月度句会

十月二十一日(月) 鹿ノ台西集会所

席題「壁」

奥村義雄選

壁はさみ北も南もどこまでも
 なまこ壁そぞろ歩きの美観地区
 気晴らしに散歩した道壁となる
 そそり立つ岩場の壁にへばりつく
 間違えて壁突き当たる高齢者
 いつからか友との壁がキズ残す
 壁つくり日々増してゆくわだかまり
 壁越した学者はみんな仏顔
 壁こそも目標更に逃げてゆく
 いくつもの壁乗り越えた小さな背
 壁破れ説教の前まずおのれ
 ⑤言葉の壁も笑顔があれば低くなる
 軸乗り越えた壁の向こうに落ち穴

乃り子
 登美
 宏樹
 春代
 幸男
 哲子
 えいじ
 アキラ
 よし尚
 広子
 千楽
 よう子
 義雄

宿題「靴」(連記)

八木哲子選

玄関に脱ぎ捨てる人そろえる人
 リハビリの靴もアデイダスナイキから
 サンダルで近所の家へ麻雀に
 初デートちよつと派手目の靴選ぶ
 ピンヒールはいてムカデの徒競走
 汚れてもお役に立つと靴の自負
 足音で解る機嫌の良し悪し
 喧嘩の後も夫の靴を磨いてる
 探しても手も足もでぬ金の靴
 天高く足のサイズも肥える秋
 行く先も告げずぶらりと老いの靴
 おしゃれ靴見た目で買って豆つくる
 居ずらくて行く当てもなく靴をはく
 水虫がビートを刻む登山靴
 秀いたずらを隠しきれない靴の泥
 軸初歩き靴はく我が子愛おしい

千楽
 乃り子
 宏樹
 よし尚
 ちさと
 アキラ
 英二
 春代
 幸男
 広子
 よう子
 登美
 えいじ
 正清
 義雄
 哲子

宿題「うめく」(互選)

②堂々と優先席のうめき声
 温暖化地球のうめき聞こえる
 ③「きぶりのうめき声聞く午前二時
 温暖化地球がうめき大洪水
 被災地は民のうめきが埋もれてる

ちさと
 哲子
 広子
 登美
 千楽

異常気象地球のうめき断末魔
 八合目うめくばかりで進めない
 苦しい言い訳うめき声に聞こえ
 ④五歳の尊い命の声を聞く
 テレビが映す被災地の呻き声
 うめかずに逝つて地獄の門があく
 ついた嘘行き場失い胸で哭く
 うめき声犬も悪夢を見るのかな
 かすかな呻き命救つた警察犬
 ⑤待った無し王手でうめくへボ将棋
 ⑦誕生にうめき一転歓声に
 ⑧秀一票で届かぬ民のうめき声
 ⑧秀家計簿のうめきなだめて発泡酒

宿題自由吟(共選)

首藤宏樹選

母恋し雲より高い天に逝く
 一言の重さ友情軋みだす
 満月の家路を急ぐ目に映える
 濁流が我が身をめぐり心刺す
 縁があり友達増える退院後
 老いてこそ背筋伸ばして胸を張る
 からすみを独り占めして飲む冷酒
 夏つばめ秋あかね見ず稲刈らる
 宅急便まだかまだかと誕生日
 厄除けはもういりません百寿には
 ⑤台風の進路日本を丸飲み
 軸昼寝して極楽と言う老い生きる

宿題自由吟(共選)

原 広子選

ご存じかマナーは人の成熟度
 宅急便まだかまだかと誕生日
 台風の進路日本を丸飲み
 昼寝して極楽と言う老い生きる
 老いてこそ背筋伸ばして胸を張る
 被災地へ子に急かされて義援金
 あれこれと自慢話のクラス会
 歓声に楯円のボール勝を呼ぶ
 一言の重さ友情軋みだす
 廃校のあとにそびえる公益社
 ⑤破れた網で金魚と彼女追う未練
 軸飛びついたインプラントでほぞをかむ

登美
 アキラ
 春代
 宏樹
 よう子
 アキラ
 登美
 哲子
 よう子
 乃り子
 義雄
 広子

鹿ノ台川柳教室会員の新聞投句 掲載された句

(九月十六日〜十月二十日各紙掲載分)

朝日新聞 田中新一選

九月十八日 題「ゆとり」

ピンチでもまずゆつくりと深呼吸

アキラ

九月二十五日 題「撫でる」

お互いに苦勞するなど犬を撫で

英二

いたずらな風又古傷を撫でていく

よう子

毎日新聞 山田順啓選

九月二十六日 題「貯める」

笑顔の貯金はなかなか貯まらない

よう子

相続の喧嘩のもとになる貯金

幸男

十月十日 題「噂」

欠席の友生存説と死亡説

アキラ

悔やんでる噂出どころ身に覚え

乃り子

読売新聞 阪本高士選

九月二十二日 題「全て」

自画像を描いて全てをぬりつぶす

正清

九月二十九日 題「肌」

学者肌未来こつそり遠ざかる

正清

十月六日 題「方角」

四方からせめたてられる神だのみ

正清

十月十三日 題「模様」

幾何学をとおんなじ円になる

正清

十月二十日 題「実る」

実るほどゲームオーバーの冷や汗

正清

奈良新聞 居谷真理子選

九月十八日 題「ゆらり」

好きなよに曲がつて胡瓜ゆらり揺れ

よう子

大吟醸身体の揺れも上品に

英二

ローカル線心解かれ缶ビール

アキラ

そよ風に粋なゆかたのすそゆれる

春代

九月二十五日 題「別れる」

別れじゃない次の世で逢う為だから

春代

慰謝料は払えませんかと元の鞆

幸男

形見分け値の張る物はすぐに消え

アキラ

京都駅君は上りで僕下り

英二

十月二日 題「絵」

戴いた絵の断捨離に要る勇氣

アキラ

どう見てもこの自画像は二割増し

極限にムンクの声のない叫び

園児の絵ママのお顔は日本晴れ

十月九日 題「くどい」

またですか犬がいよいよお手をする

つまりやな早い話がまだ続く

ねちっこい親の小言に出る欠伸

フアックスを送りましたと来るメール

十月十六日 題「文房具」

万年筆買ってもらってから大人

正義のペンもときには正義つき破る

ペン先のブルーのしずく乾くまで

毛筆がつけペンとなりボールペン

奈良新聞 自由吟

九月十九日 米田恭昌選

ダイエットあつさりなじむ妻の味

未知数の期待も添えて旅プラン

年金があてになるやらならぬやら

純粹が好き男と目のにこり

十月十日 大楠紀子選

薄墨にとめどなく虚無がただよう

二人揃って来るはずだった一人旅

夫婦喧嘩二人元気であればこそ

昼ドラで学んでいます人生を

十月十七日 大楠紀子選

平坦と思つた道の落し穴

深い空もつともつとと宇宙深く

こっぴどきと聞いた話のぼかしさ

選ばれて開き直つて仕切つてる

* 橋正清、前田幸男、勝部乃り子、山神春代、各氏は短歌俳句でも活躍

自治連合会公認クラブ。生駒番傘川柳会のご指導を得て、日頃の生活を、喜怒哀楽を、五七五に句会のご見学、ご入会大歓迎、会費一ヶ月百円

次回 十一月十八日、十二時十五分開場、西集会所 宿題は「神」、「叩く」、「自由吟」各二句

* 席題 義雄選 十二時三十分お題発表

* 「神」(連記) よし尚選

* 「叩く」(互選)

* 自由吟(共選) 登美選 幸男選

出句 〆 宿題・席題とも十三時

問合せ 原 広子(79・0061)

野々村詮(090・6961・1292)